

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年1月23日 NO.80



オー君 「おーさむさむだ。子供は風の子というけれど、このごろは、ちょっと寒（さむ）すぎるね。花ちゃん！」

花ちゃん 「そうですね。そうですね。今は大寒（だいかん）とって、一年中で一番寒い季節（きせつ）なんですよ。モンタ博士！」

モンタ博士「そうだね。梅の花もまだ咲き始めないし、もう少しのしんぼうだよ。みんな、カゼなんかひかないように、毎日のうがいや手あらいをきちんとしようね。」

オー君 「モンタ博士、このように寒いと生き物はみんなねむっているのですか。」

モンタ博士「そうだね。ハナアブなどは、寒さに強いというけど、やっぱり14・5度くらいないと動きまわれないね。」

花ちゃん 「植物もこの寒さでは、じっとがまんしているんですか。」

モンタ博士「そうだね。ほとんどの植物はじっと静かにあたたかな春を待っているんだろうね。でもね、ちょいと、あわてんぼうというか、今、花をさかせている植物もいるんだよ。」

花ちゃん 「え！そんな植物があるんですか。何という植物ですか。」



モンタ博士「ロウバイという木だよ。」

オー君 「ロウバイ？聞いたことないな。」

花ちゃん 「そのロウバイというのは、どこにあるんですか。」

モンタ博士「第七小学校のまわりをてくてく歩いていて気がついたんだ。あちこちのおうちの庭に植えてあるよ。4かしょくらいで見たよ。」

オー君 「何色のお花なんですか。」

モンタ博士「黄色い色なので、青空をバックにとってもきれいだよ。かおりもいいから、花のにおいもかいでごらん。」

花ちゃん 「どうして、ロウバイという名前になったのですか。」

モンタ博士「これまたいい質問だ。ロウバイのロウとは、蠟人形のロウで、蠟細工（ろうざいく）のような花びらをしているんだよ。」

オー君 「バイというのは、どういう意味ですか。」

モンタ博士「バイとは、梅（うめ）のことで、お花が梅のようだからなんだ。」

花ちゃん 「私もロウバイのお花を見つけてみますね。モンタ博士。」

モンタ博士「そうだね。散歩のついでに見つけてほしいね。冬晴れの青い空をバックにして、黄色に輝くロウバイは、寒い北風の中で健気（けなげ）に凜（りん）と咲いていて、その姿（すがた）がいいね。」

オー君 「今度、冬の高尾山におうちの人と行くんだ。山にもあるのかな。」

モンタ博士「山の中にはないね。このロウバイという花は、もともとは中国のものなんだ。」

植物というのは、中国からきたものがけっこうあるんだよ。」

### ロウバイの品種・中国原産の花木

ロウバイは栽培が簡単であり、品種改良も盛んで、ソシンロウバイ、マンゲツロウバイ、トウロウバイなどがある。左上の写真は正しくはソシンロウバイといい、最も普通に人家に植えられている。ロウバイの基本種は、花の中心部がやや暗い紫色をしていて、周りは黄色である。なお、中国原産の花木としては、キンモクセイ、ジンチョウゲ、ライラック、レンギョウ、オウバイ、ボケ、ハナズオウオ、コデマリ、ハクチョウゲ、サルスベリ、ピラカンサなどがあります。